



高校の吹奏楽部を舞台にした、爽やかな青春物語です。

人と関わりを持つことを避け、友人の陰に隠れて過ごしてきた給前志音。部活動にトランプを抱えつつ、吹奏楽部の部長になってしまった日向寺大志。この2人を軸に物語は進みます。引っ込み思案な性格から昼休みを1人屋上で過ごしていた志音は、父親の遺品のバチでエアドラムをたたいているところを大志に見つかり、吹奏楽部に勧誘さ



県立図書館

かしむらなのみ
額村尚美さん

青春時代の葛藤と成長

れます。大志の粘り強い勧誘に心を動かされた志音は、自分を委ねたいと吹奏楽部に入部することを決意します。志音たちの目標は東日本大会、東関東支部大会を超えて行かなくてはなりません。懸命に練習する中で、志音と大志はそれぞれ向き合わなければならない問題に直面します。



「屋上のウィンドノーツ」
額賀 澤著

自身の問題に苦しみ、葛藤する中で成長していく2人の気持ちを描かれていて、自分の青春時代を思い出しました。大志と志音の、友人とも恋人とも違う、互いを支え合うような関係性がすごいです。

市出身。本作「屋上のウィンドノーツ」で第22回松本清張賞を受賞しました。物語の舞台も行方市です。知っている地名にニヤリとしながら読んでみてくださいます。おはなし会や映画会など、毎月さまざまなイベントも行っていきます。4月には、県立図書館前にお堀の桜が見頃になります。お花見ついでに、ぜひ足を運んでみて下さい。
(文春文庫、799円)
◇ 県立図書館は、どなたでも利用カードを作って本やCDなどを借りることができ、おはなし会や映画会など、毎月さまざまなイベントも行っていきます。4月には、県立図書館前にお堀の桜が見頃になります。お花見ついでに、ぜひ足を運んでみて下さい。
(次回10日付、水戸市立中央図書館担当)



この作品に登場する青年は、石を細工してブローチや杯を作り上げる石細工職人。青年は、誰もが立派だと認めるような石細工をこしらえたのに「石の美しさはどこにあるのか」「自分がこしらえた石細工は本当の美しさを表現していない」と嘆きます。親方はそんな考えは頭の中から追い出し「たまえ」と言いますが、石の本当の力をつかむため、とうとう「不幸になる」といわれる伝説の石の花を見に山の女王のもとへ行って



水戸市立中央図書館

やなぎはしけいこ
柳橋敬子さん

懸命に生きる姿 胸打つ

しまいました。舞台となるのはロシアのウラル地方。石というのは、この地方クジャクの羽のような緑色



「石の花」
バジューフ著
佐野朝子訳

で、人々はその断面に浮かぶさまざまな模様を生かした加工品を作って暮らしてきました。登場する親方も青年も美しい石細工を作り出す職人ですが、与えられた設計通りに作るように諭す親方に対し、青年は悩みながらも石の美しさを表現しようとしてます。

環境でも懸命に生きようとする人々の姿が胸を打つ物語です。
(岩波書店、1906円)
◇ 水戸市立中央図書館では毎月、当館所蔵の映画作品の上映会を行っています。本日10日午後2時10分から、ご紹介した物語を原作とした映画を上映します。また16日には「大人のための朗読会」も開催します。作品は坂口安吾の「桜の森の満開の下」。水戸市を中心に活動する劇団員たちの巧みな朗読でお楽しみいただけます。ぜひお越しください。
(次回17日付、日立市立記念図書館担当)



今回私がお薦めする本は、日立市在住の絵本作家滑川まいさんの作品「とりこしふくろう」です。

1人暮らしのおじいさんふくろうが、雨降る夜に迷子のひよこと出会い連れて帰りましたが、今後のことが心配になります。二つ折りになったら早起きだ、朝が苦手でも面倒見られるかな。子供服も必要だ。晴れの日には川辺に連れて行く...。そら、おじいさんふくろうは、ひよこが困らないように一晩のうちに張り



日立市立記念図書館

ふじさくさちこ
藤咲佐智子さん

いちずな姿に胸が熱く

切つてはぎや手なものを準備します。このいちずな姿がほほ笑までへもあり、ま

「とりこしふくろう」
滑川まい著



母親と家族みんなで食卓を囲み、「とりこしふくろう」たまにはいもんだ「とつぶやきます。温かみのある優しい絵で、読後ほのぼのとした気持ちになります。この絵本は、第4回MOE創作絵本グランプリ佳作を受賞しています。

滑川まいさんは、絵本の他に日立市かみね動物園のカレンダーのイラストや、1月に誕生した当館のキャラクター「キトちゃん」(ミノスクの男の子)の作者でもあります。キトちゃんは図書館司書で司書になったために休業中の設定です。
◇ 日立市立記念図書館は、JR日立駅から徒歩5分の日立ビックセンター内にあります。23日から4月7日まで、日立市内の公立図書館4館(記念、多賀、十王、南部)で「へらの本展」を実施します。本の展示と併せて、日本の桜10選に選定されている平和通りやかみね公園の桜を見にぜひお出かけください。(次回14日付、ゆいぎ図書館担当)



絵本は「心の栄養素」といわれるように、子どもたちに、時には大人の私たちにも感動や想像する力を与えてくれます。

日本の現代絵本の発展に大きな影響を与えた出来事の一つに、1956年の福音館書店による月刊絵本「こどものとも」の創刊が挙げられます。「こどものとも」は、子どもが耳で聞く物語「はりにこたわり」、これまでにない、1冊1話の物語絵本の第一歩となりました。

ゆうき図書館



石井純子

絵本に込められた思い

「こどものとも」から「はじめてのおつかい」まで、今も多くの作品が読み継がれています。

「月刊絵本『こどものとも』50年の歩み おじいさんがかぶをうえました」



「こどものとも」シリーズなどの作品を深く知ることができた「月刊絵本『こどものとも』50年の歩み おじいさんがかぶをうえました」を紹介いたします。

これは2006年に「こどものとも」創刊50周年を記念して刊行された本で、制作に携わった人たちの思い、作家による絵本誕生秘話や作品へ込めた願い、また、創刊号からのバックナンバー紹介など、「こどものとも」の歩みが記されています。

私はこの本から、「心の

栄養素」となる絵本の魅力を改めて感じることができました。皆さんにもぜひ「は」を広げたいので、ぜひ読んでほしいと思います。そして心豊かな人々が集う世界になることを願っています。
 (福音館書店 2700円)
 ◇
 ゆうき図書館では「こどものとも」復刻版(創刊号から150号)を全て取りそろえています。ぜひお来館ください。当館では、詩人で市名譽市民の新川和江さんと、当市出身で免疫学者の故多田富雄さんの寄贈書を公開しています。
 (次回は31日付、龍ヶ崎市立中央図書館担当)



入團・入学のシーズンですね。新しい友達や仲間ができるこの季節にお薦めしたいのが、アーノルド・ローベルの「ふたりはともだち」です。

のんびりマイペースのまぐんと、活発でしっかり者のかえるくんの友情物語です。性格は正反対ですが、いつもいっしょでなかよくふたり。がまぐんとかえるくんのお互いを思いやるやりとりや会話が愛らしく、ユーモラスに描かれています。自然体で飾らない

龍ヶ崎市立中央図書館



周藤久美子

自然体で仲良しの2人

ふたりの関係は、ある時は スニチな関係なのです。親子のようであり、またあゝみ終えたあとはほっこりする時は兄弟のよう。とてもせな気分になります。

「ふたりはともだち」

アーノルド・ローベル著



この本は、5話の短編が収録されています。ひとつめのお話「はるかきた」では、冬が終わり春が来たことを知らせに、かえるくんはがまぐんの家を訪ねます。しかし寝坊助のがまぐんはなかなか起きてくれません。どうしてかまぐんと春を楽しみたいかえるくんは、どうにかしてがまぐんを外に連れ出そうと説得を始めますが…。

ます。季節感のある背景と表情豊かなふたりを見ていただけでも仲の良さがかがえます。四季を感じながら友達と過ごす、自然あふれた日常。大人になった今、どこか懐かしく感じ、童心に戻れる1冊です。家族で同じ本を読み合う、家読の本としてもお薦めです。
 (文化出版局、1009円)
 ◇
 龍ヶ崎市立中央図書館では、4月23日から5月12日のこどもの読書週間に合わせて、大人も子どもも楽しめるイベントを開催します。ぜひお来館ください。
 (次回は4月7日付、潮来市立図書館担当)



奈良が好きなので、現代の奈良の空気を感ぜられる本が読みたい、と手に取ったのがこの本「鹿男あをによし」。10年ほど前、テレビドラマとして放送されたので、「観になった方もいらっしやるのでは」ないでしょうか。

主人公は、東京の大学の研究室から奈良の女子高へ、期限付きで教師として赴任した「おれ」。

潮来市立図書館



今泉規子

最後は見事に伏線回収

物、という設定で思い浮かぶのは夏目漱石の「坊ちゃん」。これはそのオマージュ。鹿が話し掛けてくる、とい

「鹿男あをによし」

万城目学著



う非日常な展開に。そして彼は鹿に日本を救うためのある任務を課せられます。さらにその任務が終わるまで、『鹿男』にされてしまつのです。果たして彼は無事に任務を遂行し、元の姿に戻れるのか、というのがメインストーリー。奇想天外なストーリーですが、もしかしたらあるかもと思わせてくれるのは、この話の舞台が古の奈良だから、そのままだけに残る奈良だからこそ。そこに主人公が顧問を務める剣道部の試合や反抗的な生徒との関係など、

いろいろな話が絡んでいきますが、ラストは見事に伏線を回収して読者をあっと言わせてくれます。そして作中に鹿島神宮が重要な要素で登場するのも茨城県民にはうれしいことです。読み終える頃には、奈良の鹿に会いに行きたくなるかもしれませんね。
 ◇ (幻冬舎 741円)
 潮来市立図書館は、今年も4月20日より「図書館まつり」を開催いたします。詳細は図書館ホームページにてご確認ください。楽しい企画で皆さまの来館をお待ちしております。
 (次回は14日付、ひたちなか市立中央図書館担当)



私は動物が大好きです。子どもの頃から何度も何度も動物と話ができたらなあと思ってきました。獣医になりたいと思ったこともありました。動物と話ができたらという思いはきつと、誰もが夢見たことがあるのではないかと思います。

しかし、この本の中には夢が夢では終わらない人物が登場します。それがドリトル先生です。ドリトル先生は最初、人間のお医者さんをしているのですが、オウムのポリネシアから動物



守谷中央図書館

土田杏里さん

動物と話している気分

の言葉を書い、すっかり動物です。先生は動物と話が動物の困っていることを聞き、きる特技を生かして、さまざま分けられる名医になったの、さまざまな動物と楽しい旅や冒険に出掛けます。



「ドリトル先生アフリカゆき」
ヒュー・ロフティング著
井伏鱒二訳

今回のシリーズ1作目で先生はアフリカで流行しているという猿の伝染病を治療しに冒険に出掛けます。動物と先生の愉快なおしゃべりで、まるで自分も動物と話しているような気分になれる1冊です。

また、この本の中に「動物は、いつでも、口でばかり話すのではございませぬ」「耳でも話します。足でも話します。しっぽでも話しますし…」という一文が出てくるのですが、そんなことを考えると家にいる

犬、猫、魚、鳥…はたまた爬虫類に両生類…いろいろな動物が自分話し掛けています。この本を読んでから、動物園に出掛けてみるのも楽しいかもしれませぬ。もしかしたら動物の言葉が分かるようになっていけるかもしれませぬ。

◇ 守谷中央図書館は、小さなお子さまを1時間預かり、保護者に読書を楽しんでいただく読書応援タイム(要事前予約)を毎週月曜(祝日休館日を除く)午前10時〜午後2時まで実施しています。(次回は19日付、茨城町立図書館担当)



小鳥のさえずりが聞こえてくる新緑の季節になると、読みたくなる本です。ゲストハウスの管理人として働きながら、幼稚園の鳥小屋の掃除を無償でしている「小鳥の小父さん」が主人公です。

話は、小父さんが遺体となって発見されたところから始まります。メジロの鳥籠を抱いて孤独死していた小父さんが、どんな人でどんなふう生きてきたかが語られていきます。

小父さんには7歳年上の



茨城町立図書館

根矢幸子さん

深く優しく切ない物語

兄がいて、普通の言葉は話さず、弟にしか分からない言葉「ボーボー語」を話します。兄の世話をし、2人は小鳥ひた向きに生きる2人ですが、その毎日は幸せなのだと思わせてくれるエピソードもいろいろ出てきます。



「ことり」

小川洋子著

小鳥は小さなかわいくて、か弱い生きもののようにいて、自分は自分として生きていようとする強さも感じられます。この小父さんも兄も、世間から取り残された鳥籠の中で、静かに力強く生きていく小鳥なのかもしれません。

やがて兄の死により、1人になった小父さんの日々

ウオーキングに最適なこの時期。小鳥の声を聞きながら、茨城町立図書館にぜひ足を延ばしてください。絵本・小説・実用書・子育て本・話題の本など、お薦め本のコーナーもあります。(次回は26日付、日立市立十王図書館担当)



今回のお薦めの本は、日立市出身の作家・佐々木ひとみさんの「ぼくとあいつのラストラン」です。この本の舞台「高原」は、佐々木ひとみさんのふるさとでもあります。この物語は、主人公(小学4年生)の、大好きなジイちゃんが亡くなった日からお葬式が終わるまでのお話です。

主人公は、毎日のように遊んでいたジイちゃんが、病気で元気がなくなり、だんだんと死に近づいていく様子がこわくなくてしま



日立市立十王図書館

小池永男さん

ひと夏の不思議な体験

い、会いに行かなくなっていました。ジイちゃんが亡くなって、大切な人が亡くなり、もう



「ぼくとあいつのラストラン」

佐々木ひとみ著

話することができない寂しさや悲しさがとても丁寧に書かれており、お話の世界に引き込まれます。

そんな主人公の前に、知らない子が現れます。一緒に走ろうと誘われる主人公は…ひと夏の不思議な体験をした主人公の心と体の成長がとてもよく書かれており、爽やかな温かい気持ちになれる本です。

また「種馬所」や「藤坂」といったお話の中に出てくる地名や、お葬式を近隣の人たちが助け合うシステム(作品中では「組内」とあ

ります)は、その地域を知る人にとって、とても身近に感じます。スカイエマさんの挿絵も少年のひと夏の物語に合う、情緒あふれる風合いが魅力的です。映画化もされたこの作品を、一度手に取ってみてはいかがでしょうか。

◇ (ポプラ社、1000円)

十王図書館には図書館キャラクター「テンちゃん」がいます。図書館のなかだけではなく、ときどき十王町の中をお散歩しています。その様子を図書館HPに掲載していますので「十王図書館 テンちゃん」で検索願います。(次回は6月2日付、常総市立図書館担当)



医師に対しては、優秀な頭脳と不屈の精神、頑健な体と繊細な手技を兼ね備えたヒーローというイメージがあります。お世話になる側としてはどうあってほしいとの願望もあります。

このようなイメージや願望を多くの人が共有しているように、漫画やテレビのドラマには、どんなに危機的状况に置かれても難病・奇病に立ち向かっても難病は必ず患者を生還させるというスーパードクターが登場します。



常総市立図書館

間中辰弥さん



産前に出て目を閉じて耳を澄ましてみて下さい。チュンチュンチュンとすずめの声が聞こえてきませんか？ そう、私たち人間にとっても身近な鳥。すずめ。屋根裏や瓦の隙間に住んでいます。

すずめが主人公の絵本と言えば「すずめのぼけけん」。私が初めて「語り」を覚える時に出会った本でもあります。



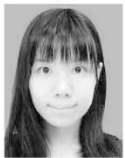
取手市立ふじしろ図書館

飯島裕子さん



私は小さい頃、「血」のことを「ちが」と固く信じていました。おてんばだったので、よく転んで膝などを擦りむいては「ちが」が出た」と家族に報告していました。本書の表紙の「これ食べたら死ぬ？」という言葉を目にしたとき、このことが懐かしく思い出されました。

著者は7歳(当時)の息子を持つ言語学者。本書では息子さんや他の子どもたち、「死ぬ」死ぬ」「血」ちが」「テレビ」テレビ」



筑波大学附属図書館

田村香代子さん

「ブラックペアン」完結

さて、今回紹介する作品は、好景気に沸くバブル期を舞台とする「ブラックペアン」シリーズの完結編。品は、好景気に沸くバブル期を舞台とする「ブラックペアン」シリーズの完結編。品は、好景気に沸くバブル期を舞台とする「ブラックペアン」シリーズの完結編。



「スリジエセンター1991」

海堂尊著

「スリジエセンター1991」は、モンテカルロのエピソード。天才外科医の「革命」の行方は？

また、天城の宿敵として立ちほだかる「帝華大の阿修羅」。こと高階権太との互いの信念を懸けた権力闘争、「佐伯外科」の教授として君臨する佐伯清剛の野望など、ハードボイルドの味わいもあります。

そして、本作の最後には海堂作品の特徴であるクロワール。こと天才外科医の天城雪彦。長身で容姿端麗。この押し出しだけでヒーロー感が抜群です。登場人物にカッコイイ異名が付いているのも、海堂尊の作品の楽しみの一つです。

常総市立図書館児童コーナーには「アンパンマン」の紙芝居があります。水害で被災後に修復されたという点でも貴重なものです。お手にとりてご覧下さい。(次回は9日付、取手市立ふじしろ図書館担当)

主人公と共に冒険体験

飛んでみると、とても上手に飛べました。最初は少しだけ飛び約束が。こすずめは飛ぶのが楽しくなり、どんどん飛んで行ってしまっただけ飛び約束が。こすずめは飛ぶのが楽しくなり、どんどん飛んで行ってしまっただけ飛び約束が。こすずめは飛ぶのが楽しくなり、どんどん飛んで行ってしまっただけ飛び約束が。



「こすずめのぼうけん」

石井桃子訳

こすずめは飛ぶのが楽しくなり、どんどん飛んで行ってしまっただけ飛び約束が。こすずめは飛ぶのが楽しくなり、どんどん飛んで行ってしまっただけ飛び約束が。こすずめは飛ぶのが楽しくなり、どんどん飛んで行ってしまっただけ飛び約束が。

取手市立図書館は2018年10月から毎月23日を「取手子ども読書の日」と定めました。「うちでいっ」の普及、啓発に努めています。ゆつたり流れる川と土手に咲く草花を見ながら、ふじしろ図書館併設の喫茶店でほっと一息家族でお茶でもいっかですか？

(次回は16日付、筑波大学附属図書館担当)

試行錯誤する習得過程

「来た」といって珍しい間違いや、たわいない言「ブレ」好「ブレ」を多数紹介。葉遊びなどを観察して紹介しています。こうした言と言語の習得過程、ひい

「ちいさい言語学者の冒険」

広瀬友紀著



子どもは周囲との関わりを通じて、単語の意味や文法などを個別に学ぶだけでなく、頭の中でまとめて自分なりのルールを組み立てているのだそうです。そしてそのルールを会話の中で実践し、それを修正して正解に近づけていく。まさに「試行錯誤する」「ちいさい言語学者」といっわけです。

登場する子どもたちがとても愛らし、それでいて

筑波大学では、5C棟体育キヤラー等で「嘉納治五郎・金栗四三 特別展」を開催中(12月25日まで)。会場は体育・芸術図書館のすぐ近く、中央図書館からは徒歩10分程度です。緑豊かな大分構内を散歩がてらぜひお越しください。11月には図書館でも、東京オリンピックに関連した特別展を行う予定です。(次回は23日付、東海村立図書館担当)



「私がこの本『ヨチヨチ父』に出合ったのは、私の妻が妊娠していることが分かった頃でした。私も妻も、何せ初めてのことで、親になるためには何が必要なのか、どんな心構えでいればいいのか? など、育児に関する情報を本やネットで調べているとき、この本に出合いました。絵本作家・イラストレーターとして活躍されているヨシタケシンスケさんが育児本を出す、というので早速書店に注文、発売日に購入、読破

東海村立図書館



小林広卓こばやしひろたか

肩の力抜けリラックス

しました。
ヨシタケさん流の切り口で書かれた父親目線の育児



「ヨチヨチ父」
ヨシタケシンスケ著

本で、私は、この本に出合えたことにより、わが子が生まれたてのころまでの時間を、
「子育てにおける『父親』は脇役」、「赤ちゃんにとって、ママは『大事な人』、パパは『ママじゃないう代表』と自分に言い聞かせ、肩の力を抜き、リラックスができました。
また、子どもが生まれてからは、「自分が若い頃は『人と同じ』ことがいやだったけど、自分の子どもが『人と同じ』と安心する」、「赤ちゃんの爪切りは、爆弾処理班並みの緊張など、パライフを満喫しながら『どこも同じなんだな』と実感しています。」
東海村立図書館では、子育て世代にも優しい図書館を目指しています。毎週第1・第3木曜の午前中は、子育て世代が利用しやすい「あかちゃんタイム」を実施。また、第3木曜11時から、赤ちゃんのおはなし会「あひまよおはなし会」を毎月開催し、お母さんたちの交流の場としています。(次回は30日付、日立市立南部図書館担当)

三十一文字凝縮の世界

「分析ではなく本能的に歌うことが独特の魅力を生むのだろう。そういう意



「河野裕子」
(シリーズ 牧水賞の歌人たち)
伊藤一彦：監修、真中朋久：編集

味が、河野さんも生まれてからの歌は、どの歌も年代ごとに作者の生活や心情、家族とのやりとりを思い浮かべることが出来ます。さらに、短歌だけではなく、対談やエッセーも収められており、河野さんの一端を知ることが出来ます。
「たとえば君、ガサツと落葉すくふやうに私をさうつて行つてはくれぬか」三十一文字の中に凝縮された世界を味わってみませんか。
また、この本の編者の真中朋久さんは、日立市出身
日立市立南部図書館は、「南部子ども広場」を開催するなど子育てに優しい図書館です。また、「南部図書館サポーターズくらぶ」を中心に市民や地域に密着した市民参画による図書館づくりの活動を展開しています。
サポーターズへの皆さんが手掛けている花壇は、年々工夫が凝らされ、見事な花を咲かせて、来館する方々の目を惹きつけています。
(次回は7月7日付、坂東市立岩井図書館担当)

日立市立南部図書館



岡部成美おかのなるみ

サッカー愛の深さ共感

まず、物語で描かれるのは、チームの昇格と降格が決まっ



「デイス・イズ・ザ・デイ」

津村記久子著

す。実際にJ2リーグを志す。物語で描かれるのは、チームの昇格と降格が決まっつてしまつ「運命の日」で共感してしまつ設定です。
熱心に応援をしている夫婦から、少したけサッカーに興味を持った少年まで、サッカーへの愛の深さはそれぞれ。スタジアムには老若男女、服装もバラバラな人たちがチームを応援するために集まります。J2ならではの、スタジアムグルメの豊富さや、マスコットの活躍、会場の空気などが魅力的に描かれています。別々のチームを応援することになってしまった家族、いつの間にか非公認マスコットになってしまった権現舞の青年。愛らしいマスコットに会いに行くのが楽しい女性、十数年ぶりに再会した祖母と孫、憧れの先輩を追い掛けるうちに、チャント(選手の応援歌)を作るようになった少年、けがから復帰した選手のゲートフラッグを作る女性、全話全てに静かな情熱と幸福感があります。読み終えた後、「夢中になりたい」「何かを応援したい」「スタジアムに行ってみたい」と、とても前向きな気持ちになれるような本です。サッカー好きにはもちろん、まったく興味がない人にも薦めます。朝日新聞出版、1728円(次回は14日付、牛久市立中央図書館担当)

坂東市立岩井図書館



深栖真弓ふかすまゆみ

「手をのべてあなたとあなたに触れたい息が足りないこの世の息が」。この歌は2010(平成22)年8月に亡くなった歌人、河野裕子さんの絶筆です。河野さんは、若山牧水賞および紫式部文学賞、斎藤茂吉短歌文学賞などの数々の賞を受賞され、08年から宮中歌会始詠進歌選手を務められた、現代の代表的な歌人です。
その作風は、心と体からの声という印象を受けます。この本の中で大岡信





毎週日曜日、朝の顔として関口宏さんの「サンデーモーニング」に出演の寺島実郎氏を、「存じの方も多」と思います。

著者は日本総合研究所会長の肩書を持ち、一体どんな研究をされているのか？と思っただけで、この本を手にするきっかけでした。

皆さんは、ジェロントロジーという言葉を知っていますか？ Gerontology 老年学」と訳され、第2次世界大戦後アメリカで生まれた学問

牛久市立中央図書館



田村千智さん

社会システム再設計を

体系の名称とのこと。上となり異次元とも言うべき高齡化社会が到来し、日本では、ついに80歳以上の人口が1000万人以上を突破する見込みです。2015年で、日本の



「ジェロントロジー宣言
『知の再武装』で100歳人生を生き抜く」
寺島実郎著

65歳以上の人口比率は世界で飛び抜けており、60歳で定年退職した人は、その後の人生をどう生きるのか？若者にとっても、人生を長い視野で組み立てる必要性を訴えています。

高齡者も福祉年金、介護といった受け身の状態を脱却して、100歳人生を支える社会づくりに貢献し、新しい視点で生活活動に参加できるような社会全体の構想が必要となっていると警鐘を鳴らしている内容です。

国は15年に「億総活躍社会」を掲げ、18年には、

「高齡社会対策大綱」を見直しています。

官民一体となって、「生きる」ということの意味を見つめ、高齡化社会に向けての社会システムの再設計をしなければならぬと説き、日本にとってジェロントロジー研究が重大で急務となっていることを共に考える1冊です。

(NHK出版、842円)

◇ 牛久市立中央図書館では、高齡者の認知症予防に関する図書や認知症の方をサポートする本等、参考図書のコナーを常設しています。

(次回は21日付、美浦村中央公民館担当)



皆さんは土の中の世界を想像したことはありませんか？ 私の場合、幼い頃に道端で小さな土が盛り上がりつつあるのを見ては、「この土はどこからきて地面の下では何が起きているのだろう」と想像したことがあります。

美浦村中央公民館図書室



坪井優美さん

地中世界の一員になる



「こんこんとやさしいやさこ」
作／とみながまい 絵／にぎまゆ

か地面の下について思いをはせることもなくなりましたが、「こんこんとやさこ」をおかさんとほられて

まったちいさなモグラのこんこんは、「ほっほっほりほり」とおかさんを探します。ぶつかった相手は残念ながらおかさんではありませんでしたが、こうして先々で出会う野菜はこんこんを助けてくれるのでした。野菜たちの力を借りて、こんこんは無事におかさんと再会することができました。

絵本では、モグラのこんこんのほかにも土の中外でさまざまな生き物の暮らしが繰り広げられています。リズムのよい言葉を口ずか

みながら読み進めていくと、自分が地中世界の一員になったかのように思えてきます。こんこんが「やさしい」に出会うたび、私たちも力をもろえそうなのが、優しい1冊です。

(教育画劇・1296円)

◇ 美浦村中央公民館図書室では「図書ボランティア」という形で地域の皆さんと協働しています。児童生徒が図書室に欲しい本を自分で選ぶ「選書会」を実施しており、夏休みの協力の下、夏休み前の学校図書室には多くの新しい本が並びます。(次回は28日付、常磐大情報メディアセンター担当)



植物学者で農学博士の拙く生命進化の歴史には新鮮な驚きが詰まっています。各章のテーマが1〜2ページの簡潔な内容で説明されているので、理解しやすくあつと10分間に38億年の歴史が読めるのもお薦めポイントです。

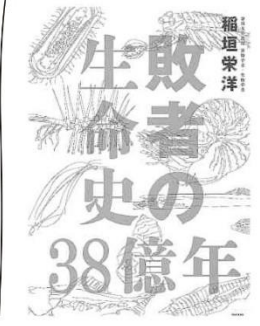
常磐大学情報メディアセンター



外井円さん

生命進化の歴史に驚き

の過程で椅子取りゲームのように空いているニッチを埋め続けることで生き延び、多様な世界を作り上げた。たこの見解などは特に興味深いものです。



「敗者の生命史38億年」
稲垣栄洋著

興味深いといえは、著者は植物をこう表現します。「どんな奇妙な生き物より奇妙な生き物がある。何しろ目も口も耳もない。手足もなければ顔もない。歩き回ることもなく、エサを食べることもない。あたかも植物がモニターであるかのようです。今まで植物をこのように捉えたことなどありませんから改めて観察してみたいのですが、確かに奇妙で怖い……と妙に納得のいく面白い発見もありました。

実は怖い？ 植物は人間とは異なる姿、異なる生き方をしていますが、祖先の祖先、そのまた祖先にさかのぼると同じ単細胞生物にたどり着きます。

植物も弱者として生き永らえ、敗者復活戦を勝ち抜いた人間である自分も生命の営みの末端で歴史を紡いでいると気付いた時、何ともいえない不思議とワクワクがありました。不思議で面白い！と改めて感じました。(PHP研究所、1728円)

新たな本との出会いが不思議を知る楽しみになるとうれしいです。(次回は8月4日付、常陸大宮市立図書館担当)

われわれ人類の祖先は敗者であるが、敗者こそが時代を切り開いたという独自の視点に基づく生命史には、今までにない面白さがあります。

敗者となった生物は進化



動物の中でもっとも恐れられているオオカミ。森の中ではどの動物も「見つからないように！」と生活していかないように！と生活していることでしょう。この本はその恐れられているオオカミの素直で、正直な気持ちで表現されているお話です。

ベンチに座ってお父さんが子供に絵本を読んでいます。その本の内容がオオカミの耳に入ってきたのです。オオカミはいままで感じたことのない絵本の面白

常陸大宮市立図書館情報館



掛札恭子

オオカミの気持ち表現

さに夢中になってしまいが本を落として行ってしまった。続きを聞きたいと思いましたが、オオカミは字が読めません。「だから偶然お父さん



「このほんよんでくれ！」
ベネディクト・カルボネリ：文
ミカエル・ドゥリユリユー：絵

れかよんでくれー！オオカミは森の中の動物たちには本を読んでもらおうとしますが、みんなオオカミを恐れて逃げてしまいます。ところが、勇氣ある優しいウサギだけは読んであげるのです。ウサギは何度も何度も、次の日も次の日も読んであげました。そのうちに「ウサギに字の読み方を教えてほしい」と言い出し、私たちが見た目で判断してしまつことが多々あるかと思ひます。第一印象はとても大事なことです。誰もが優しい気持ちは持っている

るものです。それが素直に出せるか出せないかで正しいでしょうか！ 大きくならないことも知恵と考える力がついてきて成長するものだと思いますが、生まれながらに持っている素直な気持ちはいつまでも持ち続けてほしいものです。
(クレヨンハウス、1728円)
◇ 常陸大宮市立図書館では、この本のように、心温まる本を数多く取りそろえています。広々とした空間の中、ゆったりとしたひとときを過ごしていただければと思います。
(次回は11日付、北茨城市立図書館担当)



表紙に小さな字で書かれていた「庄野潤三」という名前を見て手に取った。その瞬間、高校生の頃に読んで安岡章太郎のエッセーが頭をよぎる。それは、安岡氏が「第三の新人」と呼ばれた作家たちを題材に書いたもので、その中の一人に庄野潤三がいた。確か安岡章太郎の結婚の仲人をしたのが庄野氏でその様子が面白おかしく描かれていた記憶がある。

不思議な懐かしさから来て、開いてみると、家族

北茨城市立図書館



宇梶裕子

作家の性格伝える写真

と共に暮らした家や、氏が描いた子どもたちのスケッチ画(子どもを見つめる父親)と親の愛情が伝わってくる。そして、短くなったステッ



「山の上の家」
庄野潤三著

く役目を終え何十本も容器に入れられている。たぐさんの写真によって、昭和という時代と、その時代を生きた作家の性格も伝わってくる。庄野潤三という作家はこういう人だったのか。本人の未収録随筆のほかに、ゆかりのある人の文章が掲載されていて、その中には、長女によって最晩年の介護のことが書かれている。妻や子どもたちが力を合わせて、2009年88歳の最期を自宅でみとるのだが、そこには、大変さより

も、家族で力を合わせる楽しさがあった。そして、この介護隊の隊長は庄野氏本人であり、寝たきりでも口が利けなくても、全力で家族を守り続けているのだという。いかに家族に対して彼は愛情を注いだのだろうか。
庄野潤三の小説を読んでから長い年月がたつ。自分も親の介護を経験し、年を重ねてきた。当時は感じなかった感想を持つかもしれない。久しぶりにもう一度読んでみようか、そんな思いにさせてくれた一冊である。
(夏葉社、2376円)
(次回は18日付、坂東市立猿島図書館担当)



仕事柄、さまざまな本との出会いの合間に、ふと思いで読んでみたくなる本があります。今回ご紹介するお薦めの一冊は、第二回本屋大賞受賞作、恩田陸さん著作の「夜のピクニック」です。学生の頃、家族に薦められたことが、読むきっかけとなりました。

「歩行祭」という学校行事がこの物語の舞台であり、青春小説に当たります。青春小説といえば、スポーツや部活など、大きく変化する物語の流れや人物の心

坂東市立猿島図書館



伊藤善隆

爽やかな読了感が魅力

情が魅力と思われませんが、この本では終始一貫、長い道のりをひたすら歩くという



「夜のピクニック」
恩田陸著

とが、どうしてそんなに特別なのだろう。登場人物は疑問を口にします。私の本を手にとった時も、不思議に思いました。その真意は、読み進めていくと分かります。小休止や食事の挟み、長く苦しい道のりの中、歩く。時には友達と話しながら、時には一人思いをほせて。次第に、いつもは聞けないようなことも、人に言えない秘事も、この不思議な行事の不思議な熱気に、自然と口からこぼれてしまつた主人公をはじめ登場人物た

ちも例外なく、疲れたつらいとほやくつ、歩行祭の魔法にかかっています。穏やかながら、道中でさまざまな思いが交錯し、ラストパートでゴールへと収束していく。まるで一緒に歩き切ったような、爽やかな読了感が心地よい一冊です。(新潮社、767円)
◇ 坂東市立猿島図書館では、毎月の特集展示コーナーのほか、文学賞受賞作品コーナーなども設けてあります。季節ごとに特別おはなし会や名作映画会などのイベントも行っていますので、ぜひご利用ください。(次回は25日付、つくば市立中央図書館担当)



この本は、摂食障害の治し方が書かれた医学書ではなく、タイトル通り、「なぜか」に食べられないか」を当事者のインタビューを基に、著者が文化人類学的観点から詳細に考察した本です。

ここでは摂食障害に苦しんでいる6人の女性が登場します。彼女たちは、家族や友人など周りの何げない一言や態度から、過食や拒食に陥ってしまいます。痩せた体になれば今より幸せになれると信じ、痩せた体

つくば市立中央図書館



堀川真理恵さん

生きる意味を見いだす

の代償としてかたがたに食べられなくなってしまう彼女たちが語る人生の物語 たまのを感じさせます。



「なぜか食べられないのか」 磯野真穂著

著者によると、本来ならば人との関わりの中で私たちは「かたがたに食べられる」ことができるといいます。しかし、この本に登場する彼女たちは、体格指数(BMI)を用いた適正体重の算出方法やメタボリック症候群を防ぐ食事の方法など、自然科学の数値や専門家が提唱する言説に支配された食に振り回され、人としてのかたがたの食を奪われてしまったのです。食へるといつ当たり前の行為を、当たり前ではなくなった摂食障害当事者の目

線から見直すことで、食へて生きる意味を見いだせる一冊です。(春秋社、2700円)



「ソメコとオニ」は児童文学作家の斎藤隆介と切り絵作家の滝平二郎による絵本です。

主人公は元気な5歳の女の子・ソメコです。元気で遊んで大人たちにはなかなか相手をしてもらえません。そんなある日ソメコは、ちょっと怖い顔をしているけれど、いへらでも遊んでくれるおじさんに出会います。実はそのおじさんはオニで、ソメコをおじさんとしていたのですが…。うれしくなったソメコはオニの

小美玉市玉里図書館



塩畑千尋さん

オニ振り回す主人公

岩屋まで行って行ってしまう。ソメコをさらったので金まんまとソメコをさらったの俵を持って「こ」といっ



「ソメコとオニ」 斎藤隆介著 滝平二郎絵

手紙を書こうとします。ところが、ソメコが「カクレンボしよう」と騒ぐのでなかなか書けません。面倒くさくなったオニは正体を現しますが、オニと分かってソメコは全く怖がらず、それどころか、「ナ、おまえ、オニならオニゴッコしよう!」という始末。一方ソメコのうちではソメコがいなくなつて大騒ぎになっていました。そこへオニから手紙が届きます。オニはどのように手紙を書けたようですね。この手紙が面白く、いついっ笑って

しまします。何と書いてあったのか、ぜひ読んでみてください。手紙を受け取った時のソメコの家族の様子を想像するといっそう面白さが増すと思います。ソメコのパワフルでかわいらしい様子とそれに振り回されるオニの表情の変化が楽しい一冊です。

(岩崎書店、1500円)

小美玉市は切り絵作家の滝平二郎の出身地です。玉里図書館には滝平二郎の絵本を集めたコーナーがあるので手に取ってみてください。また、月に1回第3土曜日にお話し会を開催しています。(次回は8日付、茨城大学図書館)



毎晩4歳と5歳の子どもと一緒にしていることがあります。それは、絵本を読むことです。楽しく読んでスムーズに寝かしつけに成功、という日もあれば、「今日は1冊にして」と思うことや、「パパ、代わりに読んで」となることも。そんな日々の中で出会った本を「紹介」します。

ある時、会員制交流サイト(SNS)の投稿を眺めていると、ふと目に留まった本の表紙の画像がありました。「絵本は心のへその緒」。

茨城大学図書館



大内優香さん

気負わず眺めればいい

なんてすてきなタイトルなんだらうと思いました。著者の松居直さんは、絵



「絵本は心のへその緒」 赤ちゃんに語りかけるといっこと 松居直著

本出版社の編集長を務められ、日本で「ブックスタートの活動」を広めてきた方です。松居さんのこれまでの講演や発言の記録をまとめたものが本書です。少ないページ数の本ですが、子どもとの関わりで大事なことがぎゅっつまとまっていると感じました。松居さんは、絵本の役割は「共に居ること」「読み手」と「聞き手」が言葉の喜びを「共有(share)すること」に、絵本の最も大切な意味と役割があるとおっしゃっています。また、「絵本を読むときは、聞いても聞かなくてもいいよ、でも聞かなきゃ損だよ、

と思っへらい気楽にやる」方がよいと。絵本は、気負わずに子どもを抱っこして一緒に眺めて読むだけでもいいのかもしれない、そんなふうに気付かせてくれた本です。(NPOブックスタート、972円)

茨城大学図書館では、一般の方でも参加いただける「土曜アカデミー」を開催しています。後期は、「Jアリオオクトル in 茨城大学」(一般の部のバトル大募集です!)や大人気講座「ブック・カフェ」など楽しい企画をご用意してお待ちしております。(次回は15日付、ひたちなか市立那珂湊図書館担当)



那珂川は栃木県北西部からひたなか市と大洗町の間を流れ、太平洋に流れている川です。

その那珂川が流れる栃木県黒磯町(現・那須塩原市)を舞台に、高校2年の主人公が同級生たちと「男道」を究めるため、勉強、スポーツ、恋に奮闘する物語です。1960年代の学生運動が活発な時代背景とともに、血気盛んだけれども随所に現れる、登場人物たちの気持ちの素直さが、読み進めるうちに心地よく感じ

那珂湊図書館



白井由美子さん

素直な気持ち心地よく

那須連山と裾野に広がる主人公が散歩や下校途中に眺める風景の中に、雄大な那珂川がありま



「那珂川青春記」

森詠著

す。冬には冷たさが厳しい那須下ろしという強風も吹きます。自然豊かな土地で魚釣りやキャンプをした「男道」を鍛えるため那須連峰が雪化粧する中、靴を履かず高げた履き寒さの我慢比べをしたり、題名通りに青春を謳歌している様子がすがすがしく、うらやましく感じるばかりです。

迎える方には、故郷の自然豊かな素晴らしい景色を存分に感じながら時間を過ごしてほしいです。(小学館、絶版、県内図書館所蔵)

◇ 那珂湊図書館は那珂湊漁港に近い、海風の気持ち良さを感じられる場所にあります。ひたなかの民話を題材にした手作りの大型紙芝居を地域の皆さんと制作しており、完成した紙芝居はお話会発表したり、貸し出しを行っています。今年はその那珂川にまつわるお話を、地域にまつわる資料を、地域の方が創り上げる傑作の資料です。ぜひ、ご覧下さい。(次回は22日付、常陸太田市立図書館)



一年の中でも特に月が美しく見えると言われているこの時期に、お月さまの優しい光に包まれるような一冊を読んでみませんか。

小さい頃からからお父さんと2人で暮らしている男の子。今日はお父さんの帰りが遅いので、1人でお留守番をすることになりました。男の子は「しっかりしないと」と自分に言い聞かせますが、独りぼっちはずばり寂しいです。そんな男の子の気持ちが届いたので、お月

常陸太田市立図書館



川崎訓子さん

空から全ての子見守る

さまが遊びに来てくれませんか。2人はトランプやかくれんぼで遊び、お月さまと



「おつきさまのやくそく」

いわたしろ著

の楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。心も体もボカボカになって、ベッドに入ったおつきさまと男の子はある約束をします。それは未来の子どものために、男の子がお父さんから受け継いだ優しい心の約束でした。その後おつきさまは不思議なカエルの親子の話をしてくれませんが、男の子は途中で眠ってしまいます。そのお話の続きはお父さんが教えてくれました。お父さんはなぜお話を知っていたのでしょうか。その訳は最後に...

お月さまはいつも空にいて、全ての子どもたちを静かに見守っていてくれます。そして、寂しい子どもたちのところへ、必ず約束を守りに来てくれます。それはお月さまとの永遠の約束なのです。

見返しに描かれているお月さまの満ち欠けも、ぜひ楽しんでください。

◇ (講談社、絶版、県内図書館に所蔵)

◇ 常陸太田市立図書館は、秋の読書週間に合わせて市内小学生の読書感想画展や子ども一日図書館員など各種催しを企画しています。(次回は29日付古河市三和図書館担当)



これは断崖絶壁に建てられた建築物の写真集です。何しろ絶景なので、どれも眺めがとも良いですし、15世紀に築かれたインドの山頂の宮殿メヘランガル城塞、9〜10世紀のジョーシアの岩の上の遺跡が小さな修道院として使われているカッヒの柱、イタリアの海に突き出した崖の上のヴェルナツァの街並みなど、大さきも用途も造られた年代もさまざま、見ていて飽きません。

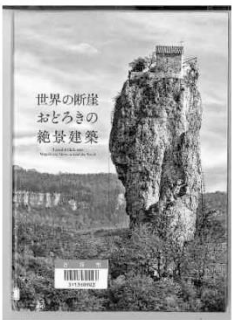
古河市三和図書館



国井和枝さん

想像つかぬ工夫や苦労

寺投入堂が紹介されています。これは崖の中腹に築かれています。8世紀の



「世界の断崖」

おどろきの絶景建築」
パイインターナショナル編集

初に思うのは「どうやって造ったの？」という疑問です。

ヘリコプターが使える時代ならともかく、荷車どころか馬も通れないような山道しかない山頂に建築物を建てるには、人力で資材を運ぶしかありません。

しかし、人が運べる重さや大きさには限度がありますから、建物が完成するまでには、私には想像もつかない工夫や苦労があったのだらうと思います。

この写真集には58の、村などを含めた建築物が紹介

されていますが、地震による崩落などで廃墟になってしまった街もあれば、多くの観光客が訪れる展望台、今も変化し続ける街並みもあり、時間の重みを感じます。

◇ (パイインターナショナル、1944年)

◇ 三和図書館には、このほかにも奇妙な建物や山頂にそびえる城、大聖堂や宮殿など、世界のおさまやかな建築物の写真集があります。これらの写真集を見て、人間や悠久の時間というものに思いをはせてみてはいかがでしょうか。

(次回は10月6日付、稲敷市立図書館担当)

日本からは鳥取県の三佛



今回紹介する本との出会いは、その前に同じ著者による「エムマおばあさん」という写真絵本を読んだことがきっかけでした。

「多発性骨髄腫」で長くは生きられないと知らされたエルマおばあさんの最後の1年間を、猫のスターキティの目を通してモノクロ写真で描かれたとても印象的な絵本でした。

どうしてこのような写真絵本が作られたのだろうか。その疑問を解決してくれた



稲敷市立図書館

おくやま けいこ
奥山啓子

死は生き方考えること

のが、「わたしは今がいちばん幸せだよ」エルマおばあさんケア日記」です。

「わたしは今がいちばん幸せだよ」エルマおばあさんケア日記」大塚敦子著



よつかわいがってもらった著者、そしてエルマおばあさんの家族は、大切な人の死を嘆きや後悔でなくどう見送るか、別れの準備をしていきます。

「わたしは今がいちばん幸せだよ」。人生の最期をそんな言葉で締めくくったエルマおばあさん。「よりよく死ぬとどうしよう」とかを教えてくれた」と著者はつづけています。

死を考えるということとは、どう生きるかについて考えることなのだろうとこの本を読んで思いました。

大切な人を見送る、いつか自分も見送られる時が来る。その前に読んでいたいただきたい1冊です。(小学館、絶版、県内図書館に所蔵)



◇ 稲敷市立図書館では読書週間(10月27日～11月9日)にちなみ、10月26日午後2時から、絵本「へいへい」などを出版している福音館書店の元常務取締役・月刊誌編集部長を務めた上田紀人氏の講演会「心を育む絵本の力」を、図書館2階の視聴覚室で開催します。入場無料で先着70人。詳しくは稲敷市立図書館ホームページで確認ください。(次回は13日付、行方市立図書館担当)



1982年の初版から2019年まで版を重ね出版され続け、マンガ・アニメ化されただけでなく、宝塚で舞台化までされてしまった小説を「存」しようか。

「銀河英雄伝説」は人類が宇宙に進出した未来の歴史を、「後世の歴史家」の視点で語る架空歴史小説です。物語は2人の軍事的天才、ラインハルトとヤンの対決を軸に描かれます。

ラインハルトは帝政を敷く国の下級貴族として生まれ、姉が皇帝の寵姫となっ



行方市立図書館

あすまさと
阿須間正人

宇宙に進出未来の歴史

た「ことをき」かけに軍人として栄達。「姉を皇帝から取り戻す」という野心を隠

「銀河英雄伝説」

田中芳樹著



トは圧倒的な指導力によって、改革を進めていきます。

ヤンは民主共和制を敷く国の商人の子として生まれ、無料で歴史を学ぶために士官学校に入学。ある戦いで武功を挙げってしまったために、軍人になってしまっています。国は衆愚政治化して「こちらも末期状態ですが、ヤンは政治に介入せず、悶々と働き続けます。

架空の物語でありながら、現実の歴史とリンクしている錯覚すら覚えるストーリー、リアリティーあふれるキャラクターは多くの

読者を魅了しています。2人の主人公とそれぞれの国はどのような結末を迎えるのか。ぜひ「1読」ください。(東京創元社、8800円) ◇ 行方市立図書館は、行方市役所玉造庁舎から徒歩7分。同敷地の玉造公民館の隣にあります。毎月第2水曜日午前10時30分から乳幼児向けの「絵本の時間」、第4土曜日午後2時から小学校低学年向けの「おはなし会」で読み聞かせを行っています。また11月9、10日に開催される「行方、ふれあいまつり」では会場でのサイン本本の配布を行います。(次回は20日付、小美玉市小川図書館担当)



ある日、図書館スタッフから、1冊の絵本を薦めてもらいました。手に取ってみると今まで読んでいた絵本とは、感じが違います。

日本語の物語の下に英訳が付いており、墨をバックに緻密な絵が、本当に細部まで描き込まれています。

物語はハロウィン真っただ中の煙突だらけの町で始まります。黒い煙に閉じ込められ、青い空や、かがやく星、外の世界を知らない町です。その夜空を駆けける配達屋さんが、配達中の



小美玉市小川図書館・資料館

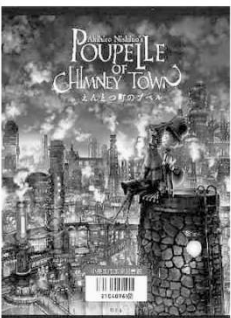
おおのひとみ
大野仁美

感情移入で物語に深み

心臓をうつかりゴミ山に落とす。その心臓に、ゴミ山のゴミがある

「えんとつ町のプペル」

にしのおきひろ著



もう1人の主人公「ルビッチ」は、父を亡くし母と2人暮らし。煙突をつくの仕事をしながら学校へ通っています。2人はあつという間に仲良くなるのですが、ラストは思わぬ結果を迎えます。

読み終えたとき、「信じぬんだ。たとえ1人になっても Believe Even if you're the only one」が、冒頭の言葉が心に浮かんできます。

私の読書の楽しみの一つに、「登場人物の誰に感情

移入して読むか」ということがあります。年を重ねると、そこにその誰かが増えてきて、物語に深みを与えてくれる気がします。



◇ 小美玉市小川図書館では第2・第4土曜午前10時30分から、おはなし会を実施していきます。11月26日午前10時から午後5時には小川図書館まつりを開催します。(次回は27日付、大子町立中央公民館別館図書館プチ・ソフィア担当)



40代半ばにして人間関係に疲れ、同時にずっとかわいがっていた猫も亡くした著者の星野博美さん。何か全く新しいことに挑みたいと、ぼっと頭に浮かんだのは、車の運転免許を取ることにした。

友達に合宿免許を勧められ、選んだのは長崎県五島列島にある自動車学校。そこは海の真ん前にある、ヤギや犬やフクロリがいて、馬にも乗れる牧場のような学校でした。星野さんは、何かができるようになってこんなに

大子町立中央公民館別館
図書館プチ・ソフィア担当



なかざわ ゆきこ
中澤由貴子さん

頑張ること、忘れない

楽しいという感覚を思い出します。しかし、楽しくて仕方ない

かけたのは最初の3日間だけ。段階が進むと頭と体が混乱して反対の動きをして

「島へ免許を取りに行く」

星野博美著



しまつのです。まるで、かつての自分を見ているようで、頑張っていると応援したくなってしまう。

最長16日間で卒業できるはずが、同時に入学した自分より若い人たちがほとんど合格していなくなっていく、後から来た人たちにも追い越されていたことに気付く星野さんに絶望や挫折感が襲ってきます。

そんな中でも、本当に感心するのは、たとえ短い間でも他の生徒の方たちへ声を掛けることや励ましなど周囲への気遣いを忘れない

なごうです。

どうせ何もできない、だから頑張らない、そんな自分に戻りたくない、という強い気持ちで新しい世界を見せてくれた星野さんに、私はいつでも頑張ることを忘れたくないと教わりました。

汗と涙、そして笑顔の4週間。皆さんも星野さんと一緒に体験してみませんか。(集英社、8558円)

図書館プチ・ソフィアでは、毎月の特集展示コーナーの他、文学賞受賞作品コーナーなども設けてあります。ぜひご利用ください。(次回は11月3日付、つくばみらい市立図書館担当)



私がお薦めする本は「せつぼうの濁点」という絵本です。

平仮名が擬人化されている世界で、道端に濁点()が置き去りにされています。「せつぼう(絶望)」「せ」に付いてきた濁点は、「せつぼう」が、いつも駄目だと落ち込むのは濁点の自分のせいで、いなくなれば「せつぼう(切望)」と「せつぼう」を言葉でいられたはずだ、と思いつき、頼んで道に捨ててもらったごうの絵本。

つくばみらい市立図書館



きむら ゆきこ
木村佑季子さん

擬人化された言葉たち

濁点は自分をもちろってくだこと頭を下げるのです。濁点を拾って入れる者がこの世に存在する意味もな

「せつぼうの濁点」

原田宗典著
柚木沙弥郎絵



い奴を世話してやるのが仕事といます。

この大きな「おせわ」は濁点を「し」の沼に連れて行って「とけてなくなってしまう」と投げ込んでしまつという、大きなおせわをするのですが、最後は納得の結末になっています。続きが気になった方は、ぜひ読んで結末を確かめてみてください。

濁点が付いたり、付かなくなったりすると意味が変わる、日本語の奥深さを感じる事ができる絵本です。擬人化されている「言

葉」を表す絵も絶妙で、「言葉」の持つイメージがよく伝わってきます。「言葉」をよく知っている大人だとなお一層楽しめる絵本です。(教育画劇、1430円)

つくばみらい市立図書館では、気兼ねなく赤ちゃんと保護者の方が図書館を利用できるように、毎月第3木曜日午前10時から正午までを「赤ちゃんタイム」としています。子育て支援室の保育士による育児相談や午前11時には0〜2歳向けのおはなし会を開催しています。図書館に来て、親子で絵本を楽しみませんか？(次回10日付は県立図書館担当)